普及指導員調査研究報告書

課題名：やまぐちオリジナルリンドウの推進

周南農林事務所農業部　　担当者氏名：　松井香織、　近藤修一

＜活動事例の要旨＞

やまぐちオリジナルリンドウ「西京の初夏」と、次年度から栽培が開始される「西京の涼風」の作付を推進した結果、面積拡大につながった。

平場地域（下松市）へもオリジナルリンドウを推進した結果、栽培面積が拡大し市場出荷が始まった。

夏期の高温対策により晩生品種の障害花発生率が減少し、次年度以降の出荷時期拡大につながった。

１　普及活動の課題・目標

リンドウの産地化を推進するには出荷期間の長期化が必要であり、「西京の初夏」から継続して出荷可能な「西京の涼風」を推進し、栽培面積の拡大を図る必要がある。当初から推進してきた中山間地域に加え、平場地域でもオリジナルリンドウの推進を図っており、平場地域での早期の栽培技術確立が必要となっている。

また、栽培面では夏期の高温による障害花の発生が問題となっており、技術対策が必要である。

流通・販売面では、栽培面積の増加に伴い、出荷調製の労力確保や県外を含めた市場出荷や、販売力強化が課題となっている。

２　普及活動の内容

（１）「西京の初夏」と「西京の涼風」の推進

現地視察や現地での生育調査結果が紹介されるオリジナルリンドウ研究会への、積極的な出席を呼びかけた。

グループ会を通して、品種特性や花市場からの評価を説明し、オリジナル品種の推進を図った。

（２）平場産地の育成

リンドウグループ会だけでなく、平場産地の生産者を中心に開催している下松支部定例会を活用してリンドウ講習会を開催した。

出荷めあわせ会を開催し、出荷切り前や調整方法を説明した。

（３）「西京の初夏」栽培技術の向上

定例会を通して、適期管理の確認や今後の管理について説明し、グループ員同士で意見交換する場を設けた。

（４）高温障害対策実証

８月下旬以降出荷する切り花では高温障害による花弁の着色不良がみられ、品質低下が問題となっている。そこで、遮光資材を設置した実証ほを設け、高温障害対策を実証した。

（５）出荷協議

生産者、JA に加え地元市場の担当職員も加え、出荷目あわせ会や出荷状況について協議した。「西京の涼風」の栽培が始まり、オリジナル品種の出荷が増えることから、県外出荷や共同選花場の設置についても検討した。

また、栽培品種や出荷本数等の情報共有化を行い、協議を進めていくことについて、グループ員の合意形成を図った。

３　普及活動の成果

（１）「西京の初夏」と「西京の涼風」の推進

既存生産者が、「西京の初夏」に加え「西京の涼風」を導入することになり、オリジナルリンドウの栽培面積が拡大する見込みとなった。

JA 周南花き生産部会　リンドウ生産グループ

リンドウの年度別植え付け本数の推移　（単位　株）

年度	H24	H25	H26	H27	H28（見込み）
リンドウ植え付け本数	17,125	16,420	7,120	12,800	16,025
うち西京の初夏	3,625	5,000	4,000	6,800	2,000
うち西京の涼風	－	－	－	－	3,800

（２）平場産地の育成

定例会で技術指導を行った結果、栽培技術や栽培意欲の向上につながり、次年度の栽培面積が拡大する見込みとなった。また、出荷めあわせ会を開催して調整方法等を説明した結果、花市場への出荷が始まった。

（３）「西京の初夏」栽培技術の向上

グループ員同士の意見交換の機会を設けることで、自分の栽培状況の報告や問題点を相談する場ができ、グループ内の情報共有が進み、技術向上の意欲が高まった。

（４）高温障害対策実証

遮光資材を設置した結果、８月下旬以降に出荷する晩生品種の障害花の発生を抑えることができた。資材設置による、生育等への影響は無かった。この結果、高需要期に安定出荷できるようになり、出荷時期の拡大と経営の安定化を図ることができる。

○　実証ほの概要

①　設置概要

・設置時期：８月 10 日～９月下旬　　・設置場所：周南市須々万（20ａ）

・設置資材：ダイオネット（黒寒冷紗、遮光率 35～40％）

・設置方法：パイプ支柱を２ｍおきに設置、畝上部を寒冷紗で被覆

②　耕種概要

・供試品種：しなの４号

・定植時期：平成 25 年５月中旬　　・収穫時期：平成 27 年８月中旬～10 月中旬

・栽培様式および施肥管理：地域の慣行に準じる

③　障害花の発生状況（９月 16 日調査）

・寒冷紗設置ほ場　50 本中０本　発生率０％

・未設置ほ場　　50 本中 12 本　発生率　24%（※）

（※）未設置ほ場では、障害花を生産者が適宜取り除いていたため、実際の発生率はさらに高いと考えられる。生産者によると、切り花全体の７割程度は障害が見られたように思うとのこと。

遮光資材設置状況

正常花

障害花

（５）出荷協議

県外出荷を継続していくこと、共選出荷に取り組みたいという生産者の意向確認や出荷協議の場づくりはできたものの、出荷方針について決定には至っていない。次年度以降も継続して取り組みを進めていく必要がある。

４　今後の普及活動に向けて

産地の維持拡大のため、生産者や JA とも連携して新規栽培者確保に向けた活動を行う。

また、既存生産者に対しては、株あたり出荷本数増加を目標に、適期管理や病害虫防除の徹底に取り組むなど、栽培管理技術の向上を引き続き図る。さらに実証試験の成果の活用を積極的に行う。

「西京の初夏」に加え「西京の涼風」の栽培が始まることから、オリジナル品種の出荷本数の増加に伴い、共同選花場や県外市場への出荷を含めた流通販売体制を検討する。